

地平ひらいた2人の素顔

ヴィヴィアン・ウエストウッドとマルタン・マルジェラ 映画2作品



ヴィヴィアン・ウエストウッドと、マルタン・マルジェラ。ファッション界に新たな地平をひらいた2人の素顔に迫るドキュメンタリー映画が、それぞれ公開される。

●「最強のエレガンス」

破壊と創造 パンクな人生

日本でもよく知られるウエストウッドは、英国で1970年代、音楽とともにファッションで権力に抵抗した「パンクの女王」。77歳の今も現役で、環境保護などの活動家としての顔も持ち、自分の思いを社会に投げ続けている。

「どの服もひどいわ。こうなったのは私のせいね」

映画「ヴィヴィアン・ウエストウッド 最強のエレガンス」は、シヨを目前に弱気な言葉を口にする姿を映し出す。カメラの存在を忘れるくらい、彼女は自然に正直にそこにいる。

2人のパートナーとの決別、ブランド経営の失敗、テレビや業界で笑いのものにされた過去。波乱に満ちた道のりが明かされるが、彼女自身は常に前を見て、他者への恨みも、成功への執着もないようだ。20歳以上年下で、公私ともにパートナーのアンドレアス・クロンターラーの才能を認め信頼していることにも驚く。

服飾史家の中野香織さんは「赤裸々すぎるほどさらけ出すヴィヴィアンは器が大きい。作品だけでなく、人生そのものがパンク。彼女の目ばかり気にする生き方がいいものは作り出してきた。他人に笑われても意に介さず、やると思ったことを淡々とやっていく。周

●「マルジェラと私たち」

奇抜な発想に証言で迫る

80年代末に彗星のごとく現れ、90年代のファッション界を席巻、そして2009年に突然表舞台から姿を消した天才デザイナー、マルジェラ。当時からメディアに露出せず、実像はベールに包まれていたが、映画「We Margiela」は周囲の証言によって、その人間性とクリエイションに迫っている。

古着を解体して再構築するなど、新しい手法を次々と提案してマルジェラ。パリ中心部の建物ではなく、郊外の空き地でのシヨなど、奇抜な見せ方も注目された。

28日から角川シネマ有楽町ほかで順次公開。

(神宮桃子)